学校番号	105

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	新編 数学Ⅰ（数研出版）						
副教材等	新課程 基本と演習テーマ 数学Ⅰ+A（数研出版）【Ⅰの部分のみ使用】 標準ノート数Ⅰ③α　（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

問題に対して，自ら考え，主体的に取り組む姿勢を身につけることを目指します。
授業では，基本的な内容の理解に重点を置き，応用的な内容に取り組める土台作りを目標とします。教科書と授業プリントと問題演習用ノートを使用して，問題を解く過程を繰り返し練習して，表現力を鍛え，復習に役立てることができるように，ノート作りの工夫も大切です。
授業を欠席した場合は，次の授業までに，欠席したときの内容の把握・理解に努めてください。
わからない内容はそのままにせず，周囲の人と教え合いながら，理解を深めてください。
定期考査時や長期休暇時は副教材・プリント等を課題として与え，理解度を点検します。
課題内の問題について，（解けなかった等の理由で）空白での提出は認めません。期限までにその問題を解く努力をしてください。（先生・友人・参考書・インターネット動画等）

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
　各分野において、基本的な概念や原理・法則を理解し、それらを状況に応じて活用できる。
【思考力、判断力、表現力等】
　事象を論理的に考察し、表や式・グラフなどを相互に関連付けて分析して問題を解決する力、または解決の過程を表現する力を身に着ける。
【学びに向かう力、人間性等】
　数学を活用しようとする態度、問題解決の過程を振り返り、評価し、改善につなげようとする態度を示す。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式，図形と計量，２次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し，数や式を目的に応じて適切に変形したりする力，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	式の計算	○多項式の加法と減法 ○多項式の乗法 ○因数分解	a: 用語・法則・公式の理解・式の整理・計算ができる。 b:式の計算を簡略化する方法を考察することができる。 c: 各項目に関心をもち，考察しようとする。 展開と因数分解の関係に着目し，因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト 課題	課題 授業への取り組み
	実数	○実数 ○根号を含む式の計算	a:有理数・無理数・実数の定義を理解し，それぞれの範囲での四則計算の可能性について理解している。 平方根の意味・性質を理解し，根号を含む式の加法，減法，乗法の計算ができる。また，分母の有理化ができる。 b:実数を数直線上の点の座標として捉えられる。また，実数の大小関係と数直線を関係づけて考察することができる。 c: 今まで学習してきた数の体系について整理し，考察しようとする。 循環小数が分数で表現できることに関心をもち，考察しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト 課題	課題 授業への取り組み
	1次不等式	○不等式の性質 ○1次不等式 ○絶対値を含む方程式・不等式	a:不等号の意味と，不等式の性質を理解している。 不等式における解の意味を理解し，1 次不等式・連立１次不等式を解くことができる。 絶対値を含む方程式，不等式を解くことができる。 b: A < B <C を A <B かつ B <C として捉えることができ，不等式を解くことができる。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト 課題	課題 授業への取り組み

			身近な問題を１次不等式の問題に帰着させ，問題を解決することができる。 絶対値記号を含むやや複雑な式についても，適切に絶対値記号をはずす処理ができる。 c: 不等式の性質について，等式における性質と比較して，考察ようとする。 絶対値記号を含むやや複雑な方程式や不等式を解くことに取り組む意欲がある。			
	集合と命題	○集合 ○命題と条件 ○命題とその逆･対偶･裏 ○命題と証明	a: 命題と条件，必要条件等の用語の意味を理解し，集合の包含関係から命題の真偽や各条件を求めることができる。 命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解し，それらの真偽を調べることができる。 b: 命題の真偽を，集合の包含関係に結び付けてとらえることによって考察することができる。 命題に応じて対偶の利用や背理法の利用を適切に判断して証明することができる。 c: 命題と条件の違いや，命題と集合との関係について，積極的に理解しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト 課題	課題 授業への取り組み
２学期	２次関数のグラフ	○関数とグラフ ○2次関数のグラフ	a:f(x)などの関数の表記を理解し，用いることができる。 2 次関数の式を適切な形に変形し，頂点や軸の位置を求め，グラフの平行移動とともに理解し，グラフをかくことができる。 b:２次関数の特徴について，表，式，グラフを相互に関連付けて多面的に捉え，平行移動を頂点の移動に着目して，考察することができる。 c: 座標平面上の点と象限について，理解を深め，放物線のもつ性質に興味・関心を示し，自ら調べようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト 課題	課題 授業への取り組み

	２次関数の値の変化	○2次関数の最大･最小 ○2次関数の決定	a:２次関数の最大値・最小値を求めることができる。 与えられた条件を関数の式に表現し，２次関数を決定できる。 b:具体的な事象の最大・最小の問題を，２次関数を用いて表現し，処理することができる。 ２次関数の決定に適した式の形を判断することができる。 c: 具体的な事象の考察に，２次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト 課題	課題 授業への取り組み
	２次方程式と2次不等式	○2次方程式 ○2次関数のグラフと x 軸の位置関係 ○2次不等式	a:２次方程式を解くことができ，判別式の符号と実数解の個数の関係を理解している。 ２次関数のグラフと x 軸の共有点の座標・個数が求められる。 ２次不等式・連立不等式を解くことができる。 b:２次方程式の実数解に関する条件を式で示すことができる。 c:２次不等式を解くときに，図を積極的に利用する。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト 課題	課題 授業への取り組み

	三角比	○三角比 ○三角比の相互関係 ○三角比の拡張	a：直角三角形において，正弦，余弦，正接が求められる。 三角比の定義から，辺の長さを求める関係式を考察することができる。 直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し，測量などの応用問題に利用できる。 三角比の相互関係を利用して，1つの値から残りの値が求められる。 $0^\circ \leqq \theta \leqq 180^\circ$ において，三角比の値から θ を求めることができる。 b：三角比の表から $\sin\theta$，$\cos\theta$，$\tan\theta$ の値を読み取ることができる。 具体的な事象を三角比の問題としてとらえることができる。 三平方の定理をもとに三角比の相互関係を考察できる。 既知である鋭角の三角比を，鈍角の場合に拡張して考察できる。 c：日常の事象や社会の事象などに三角比を活用しようとする。 これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し，三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。 三角比が与えられたときの θ を求める際に，図を積極的に利用しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト 課題	課題 授業への取り組み

3学期	三角形への応用	○正弦定理 ○余弦定理 ○正弦定理と余弦定理の応用 ○三角形の面積 ○空間図形への応用	a: 正弦定理・余弦定理を用いて，三角形の辺の長さや角の大きさ，外接円の半径を求めることができ，測量に応用できる。 三角比を用いた三角形の面積を求める公式を理解している。 ３辺が与えられた三角形の面積と内接円の半径を求めることができる。 正弦定理，余弦定理を空間図形の計量に応用できる。 三角比を利用して，正四面体などの体積を求めることができる。 b: 三角形の辺と角，外接円の半径の間に成り立つ関係式として，正弦定理や余弦定理を導くことができる。 正弦定理・余弦定理を測量に応用できる。 正弦定理を a：b：c=sinA：sinB：sinC としてとらえ，三角形の角の大きさについて考察することができる。 三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。 三角形の面積を，決定条件である２辺とその間の角または３辺から求めることができる。 空間図形への応用において，適当な三角形に着目して考察することができる。 c: 正弦定理・余弦定理の図形的意味を考察する。また，三角形の外接円，円周角と中心角の関係などから，正弦定理を，三平方の定理をもとに余弦定理を導こうとする。 三角形の解法について興味を示し，sin75° なども求めようとする。 三角形の内接円と面積の関係を導こうとする。 日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト 課題	課題 授業への取り組み

	データの分析	○データの整理 ○データの代表値 ○データの散らばりと四分位数 ○分散と標準偏差 ○2つの変量の間の関係 ○仮説検定の考え方	a: 用語の定義や意味を理解し，それらを求めることができる。また，データの散らばりを比較することができる。 データの分布を表す図を作成し，比較することができる。 分散，標準偏差，相関係数の定義とその意味を理解し，それらに関する公式を用いて求めることができる。 分割表の意味と仮説検定の考え方を理解し，問題解決に活用することができる。 b:代表値として平均値を用いることが必ずしも適切でないことを理解している。 データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。 外れ値の背景を探ることの利点を考察することができる。 変量の変換によって，平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができ，それらの性質を活用して平均値や分散の計算を簡略化することができる。 散布図を作成したり，相関係数を利用したりして，２つの変量の間の相関を考察することができる。 複数のデータを，散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析し，問題解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。 問題の結論について判断したり，その妥当性について批判的に考察したりすることができる。 c: データを整理して全体の傾向や散らばりの度合い，データ間の相関関係を考察しようとする。	定期考査 小テスト	定期考査 小テスト 課題	課題 授業への取り組み

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度